ラグビー熱の低い中部地区で、男子の少ない商業高校を率い、夜回りまでして日本一に導いた山田耕二さん(73)。愛知・西陵商（現西陵高）を中心に29年間に及ぶ教師生活を生徒たちとのエピソードをまじえ、連載する。

夜回り 山田先生

西陵商ラグビー部元監督

▶1◀

29年間 全力で生徒の人生応援

日本で開催される2019年ラグビー・ワールドカップ（W杯）の試合会場の1つに愛知県豊田市の豊田スタジアムが3月に決定した。愛知県のラグビーは、特に高校では関東、関西、九州に比べると、活躍が目立たない。それでもW杯が誘致できたのは、トップリーグで活動するトヨタ自動車を始め、県のラグビー関係者の尽力が大きい。

全国でいつも劣勢な愛知県勢。苦戦を強いられる中、私は18年前に西陵商ラグビー部監督として通称「花園」、全国高校ラグビー大会で県勢唯一の優勝に携わることができた。

毎朝7時から朝練、昼は生徒と一緒に昼食を囲み、放課後も練習で生徒らとともに暗くなっても走り回る。終わった後には各家庭を訪問し、保護者と話す。29年間の教師生活で1日も欠かさずこれを続けてきた。どうしてそこまでするのかと思う方もいるだろう。でも、そこまでしないと、生徒たちを社会に送り出すことができなかった。

練習と家庭訪問 一日も欠かさず

元西陵商ラグビー部監督の山田耕二さん＝愛知県で

社会は言うまでもなく厳しい。社会人になる前の高校3年間は非常に重要だ。過ごし方によって、その後の人生が大きく左右される時期なのだ。例えばコンビニの前でたむろして夜遊びを繰り返し、だらだらと過ごす。または、何かしら目標を持って、つらい時には踏ん張り、やりたいことをやり抜く。時間はどちらも「3年間」だ。

誰だっていい人生を送りたい。その基盤を作るため、ラグビーを通じて社会性を持った人間に育てたかった。だから私は生徒たちの人生を全力で応援してきた。

定年後はトップリーグ豊田自動織機の総監督などを務め、現在は愛知県弥富市の老人ホームで理事長を務めている。73歳になった今、人生を振り返り、改めて思う。人生は後戻りができない。また、人生は曲線だ。生まれて成長するに従い上昇し、老いて死ぬまでにまた下っていく、虹のような放物線を描く。いかに大きな虹を描けるか。

私の指導は生徒だけでは収まらず、保護者にまで及んだ。まずはお弁当へのダメ出しの件から話しましょうか。

◆山田耕二（やまだ・こうじ）

1942（昭和17）年5月23日生まれの73歳。名古屋市出身。名古屋市立工芸高から日体大へ進学。2年生時に日本代表メンバーに最年少で選ばれた。卒業後は愛知県で教員となる。74年、西陵商に赴任し、ラグビー部監督に就任。以降29年間で全国高校ラグビー大会に19回出場。97年には愛知県勢として史上初の優勝を果たした。03年に定年退職後は豊田自動織機総監督を経て、現在は愛知県弥富市で老人ホームの理事長を務めている。